

**岩出市観光ビジョン（素案）に対する
パブリックコメントの実施結果**

1 意見募集の概要

○募集期間：令和8年2月2日（月）から3月3日（火）まで

○公表場所：岩出市役所 事業部 産業振興課、総合保健福祉センター（あいあいセンター）、各地区公民館
岩出図書館、岩出市ウェブサイト

○提出方法：持参、郵送、ファクシミリ、Logo フォーム

○意見提出先：岩出市役所産業振興課

2 意見募集の結果

○意見提出数：7件

○提出されたご意見と市の考え方

番号	ご意見・ご提言の内容	市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体）読みやすく、わかりやすく観光の必要性を理解できるが、ページ数が多いので、動画にして欲しい。 ・（全体）観光案内所と道の駅ねごろ歴史の丘について特化されすぎており、この観光ビジョンを共有してもビジョンの推進体制に入っているだけで、目標達成のためにどうということをするのか地元事業者等の役割等がわかりにくいです。 ・（全体）「ショップ・飲食」等の地元事業者との連携強化を明確化して欲しい。 ・（8ページ）観光イメージを確立し、「根來」のブランド化に取り組んでいるとありますが、その確立された観光イメージを今回の市全体の観光ビジョンに取り入れていません。 別計画ではありますが、令和2年2月25日作成の産業振興促進計画の重点的に進める方針（3ページ）のひとつに「商品価値向上につながる地域ブランドの育成」とあり、推進するための取組（4ページ）においても観光に関しては地域ブランドを推進 	<p>① ご意見・ご要望の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分量が多いので、動画などで分かりやすくしてほしい ・観光案内所・道の駅に特化し過ぎ。地元事業者等の役割が見えにくい ・ショップ・飲食等との連携強化を明確化してほしい ・「根來」ブランドをビジョンでも継続的に位置づけてほしい <p>②市の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反映（周知手段として）：動画化は負担が大きいが、代替として「概要版（数枚で理解できる資料）」と「ソング版」など、周知・浸透手段は充実する ・反映（一部）：推進体制（誰が何をするか）と地元事業者の役割は、計画の実効性を高めるため明確化する ・反映：「根來」は市の中核資源の一つとして、全市資源と束ねる形で継続活用方針を明記する

していくとあります。

一方、先日の第3次岩出市長期総合計画（後期基本計画）（案）に対するパブリックコメントでの計画では、「根來」のブランド化については記載されていません。

「岩出市長期総合計画」の観光分野における個別計画となる観光ビジョンに取り入れていないということは、「根來」のブランド化事業は重点的な観光事業としての位置づけではないのでしょうか。

近年のイベント等のチラシ、施設や店舗の掲示物等に全く取り入れられていません。地方創生関係交付金事業と共に終了でしょうか。

地方創生関係交付金事業の効果検証にて

（<https://www.city.iwade.lg.jp/koushitsu/sogos-enryaku.html>）外部有識者からの評価では、「地方創生関係交付金を活用した事業は終了となるが、本ブランディングデザインを一過性のものにせず継続的に活用し、市内外に広く周知させるための仕組みや、観光関連事業者のサポートに取り組んでいただきたい。」とあります。

観光案内所から各地へのルートを確立しても、各地の魅力自体を向上させる必要があるため、「根來」のブランド化事業は観光ビジョンには必須とします。ブランドこそ地元と共有して取り組む必要があり、観光ビジョンにも記載すべきでないでしょうか。

③修正内容

P82（推進体制の説明箇所）

挿入位置：P82「実際にどうやるんすか？」の直後
追記要旨：市・観光協会等・民間事業者・交通事業者等・市民／地域団体の 役割分担を会話で明確化

P8（根來ブランド）

挿入位置：「観光イメージを確立し、『根來』のブランド化に取り組んでいる」の直後
追記要旨：根來ブランドは一過性でなく 継続活用し、案内所・周遊施策と連動、事業者の取組展開を支援する旨を追記

2	<ul style="list-style-type: none"> ・（24 ページ）機会—旧和歌山県会議事堂は、旧和歌山県議会議事堂。道の駅さくらの里は、道の駅「根来さくらの里」等、同じビジョン内での表現は統一すべきではないでしょうか。 ・（24 ページ）弱み—根来寺周辺のみ観光となっていてしまっている。とありますが、根拠とされてる数値は観光客動態調査等と思われ数値が把握できる主要施設が根来地域に集中しているためと思われませんが、一方で機会—飲食店を目的とした市外からの訪問者が増加傾向にある。とあります。おそらく、飲食店については事業者からの情報で分析されており、調査上は観光客と扱われていないと思います。施設観光だけでなく、フードツーリズムも考慮した観光ビジョンの作成が必要ではないでしょうか。 ・（24 ページ）強み—和歌山県全域の観光情報発信が可能。とありますが、市内 2 か所の道の駅が道の駅の 3 つの基本機能の 1 つである情報提供機能の役割を果たせていないのではないのでしょうか。特にねごろ歴史の丘は国土交通省の「道の駅」の第 47 回登録についてのプレスリリース資料に「和歌山県の玄関口として県内の観光情報を PR する」とあり、当初は県内の観光情報を発信されていましたが、近年はその機能が低下しているように感じます。物販も重要ですが、そもそもの施設としての役割等や 2 か所の道の駅それぞれの位置づけを再確認する必要があるのではないのでしょうか。 	<p>①ご意見・ご要望の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名称・表記の統一（旧施設名、道の駅名称等） ・「弱み（根来寺周辺のみ）」は根拠が限定的では ・飲食目的の来訪（フードツーリズム）も観光として位置づけるべき ・道の駅の情報提供機能低下への対応、2 駅の役割整理が必要 <p>②市の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反映：誤記・表記ゆれは統一する ・反映：「弱み」については、根拠（データ範囲・限界）を補足して誤解を減らす ・反映：食を来訪動機として明確に位置づける ・反映：道の駅の情報提供機能と 2 駅の役割分担を明記する <p>③修正内容</p> <p>P24（SWOT・用語） 修正：固有名詞・施設名・道の駅名称等を 全編で統一 追記：弱み記述の直後に「データで捕捉しにくい来訪（飲食目的等）がある」旨を注記</p> <p>P25（SWOT の改善戦略課題：飲食目的の来訪者に触れている行の直後） 追記要旨：フードツーリズムを来訪動機と捉え、情報発信・商品造成・周遊導線でも市内消費へつなぐ旨を追記</p> <p>P48（道の駅の説明末尾） 追記要旨：2 駅の機能分担・情報提供機能強化（案内所との連携含む）を会話で追加</p>
---	--	---

3	<p>(41 ページ) 岩出市の活性化には、特に若年層(次の世代を作る人たち)の人口流出をとめることが肝要。とありますが、ターゲットは具体的にどこなのでしょう。若年の友達グループなのか、ファミリーなのかによって、PR方法から変化すると思います。目標達成のため、具体的なターゲットの設定は必要ではないでしょうか。また、現状の根来地域の各観光施設におけるメイン客層もわかれば、よりわかりやすいと思います。</p>	<p>①ご意見・ご要望の概要・「若年層」と言っても幅が広く、誰を想定しているか不明・施設別の主な客層も分かると良い</p> <p>② 市の考え方・反映(一部)：若年層は施策に落とし込めるレベルまで細かく分け、訴求の方向性を明確にする・反映(方針)：施設別客層は、現状の把握可能範囲を踏まえつつ、今後アンケート等で継続把握する方針を明記する(断定しない)</p> <p>③修正内容 P41(若年層の人口流出に触れている箇所直後)挿入位置：該当説明・会話直後に「ターゲットの具体像」会話+整理を追加追記要旨：若年単身(学生・20代社会人)、若年ファミリー、若年カップル・友人グループの3セグメントを提示し、媒体・訴求最適化の考え方を追記あわせて：主要施設の来訪者属性は今後の調査で継続把握する旨を追記</p>
4	<p>(26 ページ) 根来寺と根来寺 (27 ページ) 令和2年と令和4年(全角半角)、観光週</p>	<p>①ご意見・ご要望の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根来寺/根来寺など表記ゆれ ・年号等の表記ゆれ、誤字(例：「観光週」) <p>②市の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反映：読みやすさ・正確性の観点から表記統一・誤記修正を行う <p>③修正内容</p> <p>P26-27(該当箇所)+全編</p> <p>修正：根来寺表記の統一、年号表記の統一、誤記語の修正(文脈に沿う正しい語へ)</p>

5	<p>(10 ページ) 「令和5年は令和元年と比して月別宿泊客数に大きな差異はありません。」とありますが、その上の記載は「令和5年の月別宿泊客数は令和元年と比較して、コロナ前の水準に戻っていません。」とあります。約58%減は、大きくないでしょうか。</p>	<p>①ご意見・ご要望の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水準に戻っていない」と「差異はない」の記述が矛盾している <p>②市の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反映：傾向（季節変動）と水準（総数）を区別し、表現を整合させる <p>③修正内容</p> <p>P10（宿泊客数の説明段落）</p> <p>修正：「総数としては未回復」「月別の増減傾向（山谷）は概ね類似」を区別して記述し、矛盾が生じない形に修正</p>
6	<p>(79 ページ) 滞留拠点の必要性をわかりやすく解説してくれており、良いと思いましたが、どこを滞留拠点とするかが、わからないので詳しく書いて欲しいです。</p> <p>(47 ページ) 道の駅は外貨獲得施設であるとは思いますが。一方で、国土交通省の令和7年2月「道の駅」施策の検討状況」では、「道の駅自体が目的地」の第2ステージから「地方創生・観光を加速する拠点」の第3ステージを推進しています。長期ビジョンのため、各道の駅の役割を整理した方が良いのではないのでしょうか。</p>	<p>①ご意見・ご要望の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「滞留拠点」がどこを指すのか分からない（定義・候補が必要） ・道の駅の役割（第3ステージ等も踏まえ）を整理し、2駅の役割分担を明確化してほしい <p>②市の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反映：滞留拠点は定義・基準・候補の考え方を明記し、誤解を減らす ・反映：道の駅は2駅の役割分担を明示し、情報提供機能と案内所連携を強化する方向性を明記する <p>③修正内容</p> <p>P79（紀の川さんの「既存資源…柔軟さ…重要です」と、岩倉課長の「資源を活かす計画かぁ…」の間）</p> <p>追記要旨：滞留拠点の 定義・選定基準・候補の考え方を会話で説明し、その後「基準を満たすための実装（既存磨き上げ、ベンチ等、案内、SNS、土産、二次交通等）」まで会話でつなげる</p> <p>P47（道の駅説明の末尾／案内所の話に入る前）</p> <p>追記要旨：ねごろ歴史の丘＝広域からの玄関口（情報・周遊提案のハブ）</p> <p>根来さくらの里＝食・産品で滞在消費を伸ばす拠点を会話で明確化し、共通方針として情報提供（デジタル含む）と周遊導線づくりを追記</p>

<p>7 岩出市民として、本計画に示されている観光ビジョンについて、以下の意見を提出いたします。</p> <p>観光振興に向けて新たな施設整備を進めることは重要ですが、既存の観光資源を活かし、整備していくことも同様に重要であると考えます。</p> <p>例えば、民族資料館などの既存施設についても、展示内容や案内方法の工夫、維持管理の充実を図ることで、岩出市の魅力を伝える拠点となり得るのではないのでしょうか。</p> <p>観光客を呼び込むためには、まず市民が岩出市の観光資源や魅力を理解することが必要であると考えます。市民が地域の魅力を語ることであれば、来訪者にとっても、より一層魅力的な観光地になるのではないのでしょうか。</p> <p>観光客を増やすためには、新たなイベントの開催だけでなく、既に実施されている「夏祭り」「かくばん祭り」などの行事についても、告知や宣伝方法を工夫することで、今以上に市外からの来訪者を呼び込むことができると考えます。</p> <p>例えば、SNS を活用した情報発言の強化や、写真・動画をを用いた発信など、より広い世代に届く広報の工夫が必要です。</p> <p>また、来訪者が持ち帰りたくなるような「いわで名物」と呼べる特産品やお土産の開発を進めることで、岩出市の印象を強め、再訪につなげることも重要ではないのでしょうか。</p> <p>一方で、現状の受入体制を考えると、仮に観光客が増加した場合でも、宿泊施設の不足や移動手段の不便さに加え、団体客が利用できる食事場所が限られているという課題があり、観光客の満足度が低下する可能性が懸念されます。</p> <p>観光振興を進めるにあたっては、集客策とあわせて、受入体制の整備を計画的に進める必要があると考えます。例えば、バス停へのベンチ設置は、観光客のみならず高齢者のバス利用時の利便性向上にもつながるものであり、比較的取り組みやすい施策ではないのでしょうか。</p> <p>宿泊施設不足への具体的な対応策として、民泊を増やすための制度的・実務的な支援が考えられます。</p>	<p>①ご意見・ご要望の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規整備だけでなく既存資源の磨き上げが重要 ・市民理解・参加、SNS（写真・動画）発信強化が必要 ・土産・特産品開発が消費拡大に重要 ・宿泊・二次交通・休憩（ベンチ等）の受入体制を強化してほしい <p>②市の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反映（構造化して）：課題としては「受入体制（休憩・二次交通・宿泊等）」を明確化 <p>施策としては「既存資源磨き上げ／SNS 発信／土産造成」を具体化</p> <p>③修正内容</p> <p>P27（課題章：現状と課題の段落末尾） 追記要旨：通過都市課題に加え、休憩環境・二次交通・宿泊等の受入体制が不足すると通過が助長される旨を追記</p> <p>P79（意見6の追記会話に統合） 追記要旨：「滞留拠点の基準を満たすために何をするか」として、既存資源磨き上げ、SNS 発信、土産造成、休憩環境、二次交通等を“実装パート”として統合（定義の繰り返しはしない）</p>
---	---

また、飲食店等に対する観光客向けメニュー開発の助言や、SNS を活用した情報発信のサポートや講座の開催など、事業者が観光に関わりやすくなるための支援も重要です。行政が後押しする体制づくりを進めることが必要ではないでしょうか。

さらに、今年完成する案内所（岩出駅前）を起点とした定期的な観光ツアーの実施や、観光モデルコースの明確化、電動モビリティの貸出しサービスなど、初めて岩出市を訪れる人でも迷わず市内を楽しめる仕組みづくりも有効であると考えます。

市民の 1 人として、観光客の増加で岩出市が賑やかになり、より多くの人に選ばれるまちへと発展していくことを願っております。